

平成28年度厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
分担研究報告書

東北大学病院神経内科における診療実態

研究分担者 青木正志 (東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座 神経内科)
研究協力者 菊池昭夫、中島一郎
(東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座 神経内科)

研究要旨

【目的】平成28年1月1日から12月31日までの東北大学病院神経内科における子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑われた患者の診療実績を調査する。またその病態を検索する。

【方法】上期間内に当科へ紹介となった子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑いの患者は3名であった。

【結果】平成27年4月1日から12月までは4名の症例が外来受診された。平成28年1月以降は3名であったが1月に1名、2月に2名であり、3月以降の受診者はいない。

【結語】継続して注意深い診療をしていく必要がある。また本病態解析のための、患者血清中の脳炎関連自己抗体の測定システム作成に着手した。

A.研究目的

平成27年4月から「子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究班」(池田班)に参加をして、当院婦人科と共にヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関となった。平成28年1月1日から同年12月31日までの東北大学病院神経内科における子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑われた患者の診療実績を調査する。また本病態の成因を検索する。

B.研究方法

平成28年1月1日から同年12月31日に当科へ紹介となった子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑いの患者は3名であった。

(倫理面への配慮)

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行っている。

C.研究結果

I.症例提示

症例1

18歳女性 3年前にワクチン接種。約1年前から四肢でピクつきを感じるようになり当科へ紹介となる。当科受診時には神経学的所見には問題なし、四肢遠位部で発汗亢進あり。甲状腺機能などに異常なし。紹介元の医療機関へフォローを依頼した。

症例2

18歳女性 平成25年5月にワクチン接種の後から胸部圧迫感が出現。平成26年4月からはめまい感(浮動感)が出現した。当科受診時、神経学的所見に問題なし。頭位変換時に20秒程度のめまいが誘発された。良性発作性頭位めまい症疑いと診断し、生活指導などを行い、紹介元の医療機関へフォローを依頼した。

症例3

16歳女性 ○○大学病院精神科に過眠症疑いとして通院中。ワクチン接種との関連に

ついて紹介あり。神経学的所見は両下肢腱反射亢進のみ。同科で引き続き加療を継続してもらうことになった。

II.病態解析研究

患者血清中の脳炎関連自己抗体を検出すべく、ELISAを用いたシステムを作成中であるが、現時点では結果として報告できる成果を得ていない。

C. 考察

平成27年4月1日から12月までは4名の症例が外来受診された。平成28年1月以降は3名であったが1月に1名、2月に2名であり、3月以降の受診者はいない。神経学的所見

でも明らかな異常は指摘できない。脳脊髄液検査の希望なし。

E.結論

継続して注意深い診療をしていく必要がある。

F.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

G.知的財産権の出願・登録状況

なし